

令和4年度

教職課程

自己点検・評価報告書

令和5年3月

跡見学園女子大学文学部

目 次

I 教職課程の現状及び特色	1
II 基準領域ごとの自己点検・評価	2
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み.....	2
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	8
III 「教職課程 自己点検・評価報告書」作成のプロセス	11
現状基礎データ票	12

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

(1) 大学名：跡見学園女子大学（教職課程設置学部学科）文学部人文学科

(2) 所在地：文京キャンパス 〒112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2

新座キャンパス 〒352-8501 埼玉県新座市中野 1-9-6

(3) 学生数及び教員数（令和4年11月1日現在）

① 学生数：教職課程履修者数 143 名／文学部人文学科 649 名／大学全体 4036 名

② 教員数：教職課程科目（教職・教科とも）

・文学部人文学科 38 名（専任 11 名、兼任 27 名／大学全体専任 105 名）

ア) 教科及び教科の指導法に関する科目（学生履修者数 1961 名）

・中学校一種（国語、美術） 専任 11 名 兼任 15 名

・高等学校一種（国語、書道、美術） 専任 11 名 兼任 16 名

イ) 教育の基礎的理解に関する科目等（学生履修者数 327 名）

・専任 1 名 兼任 4 名

ウ) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

・専任 2 名 兼任 7 名（学生履修者数 225 名）

エ) 教育実践に関する科目（学生履修者数 50 名）

・専任 3 名 兼任 1 名

2 特色

本学の教職課程は、文学部人文学科に開設されており、中学校一種（国語科、美術科）と高等学校一種（国語科、書道科、美術科）の免許状を取得することができる。

近年では、20～30 名ほどの学生が毎年教職課程の資格を取り（H30 年 30 名、H31 年 33 名、R 元年 21 名、R2 年 20 名、R3 年 21 名）、その後数名が首都圏を中心として教職に就いている。また、卒業後さらに小学校教諭や特別支援学校教諭の資格を取って教壇に立っている卒業生も見られる。本学の創立者である跡見花蹊は、伝統と品格、教養を身に付け、自律し自立した女性を育成することを教育理念としていたが、本学の教職課程でもその理念のもとに、教育者としての使命感や教育的愛情といった資質・能力と、プロとして社会で活躍するスキルを磨く力がバランス良く育成されることを目的に教育課程が組まれている。1、2 年次の前期課程においては、「教職論」を始めとした教職教養科目を中心に、3、4 年次の後期課程では、「教科教育法」「教育実習」等の専門科目や実習を中心にカリキュラムが組まれ、豊かな教養と実践的な指導力を兼ね備えた教師の育成に努めている。

II 基準領域ごとの自己点検・評価

1 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

〔現状説明〕

学祖・跡見花蹊の教育理念を継承する跡見学園女子大学は、時代と社会に対する深い洞察力を養成することが学問の府としての最大の社会貢献であると認識し、実践的な教養を備え、自律し自立した女性を育成するための教育・研究を実現することを教育理念としている。

その教育理念を実現するために、本学のディプロマポリシーでは、①「広い視野をもって専門知識を体系的に理解する力」、②「価値観の多様性を理解し、他者に働きかけるコミュニケーションスキルと表現力」、③「問題を発見し、解決に導く論理的思考力」、④「生涯にわたって活かすことのできる、実践と結びついた豊かな教養と創造力」、⑤「現代社会のさまざまな場面において、協働して目標を達成できる力」の5項目の力を身につけることを求めている。

このディプロマポリシーに則り、本学の教職課程では、下記の「理念」の下に、教員養成の重点項目としての三項目を定め、大学HPの「情報公開」「教育課程」「教職課程情報公表」「跡見学園女子大学教職課程」欄に掲載し内外に公表することで、教職課程教育に関する教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みと、目的・目標の共有を図っている。

【跡見学園女子大学教職課程「理念」】

現在、教師に求められている資質能力には、専門職としての教職、教育者としての使命感、人間理解と教育的愛情、専門的知識と豊かな教養、実践的指導力などが考えられる。変化の激しい時代に負けない子どもたちの「生きる力」を育むために、次の事項を教員養成の重点としている。

【跡見学園女子大学教職課程・教員養成の重点項目】

- ① グローバルな視点にたって思考し行動できる資質・能力の育成…日本の伝統文化の尊重、異文化理解、自主的精神に満ちた人間尊重の感性、ボランティア精神や特別支援など多様な価値観の尊重
- ② 新たな教育課題に対応し、自律し自立できる教師の育成…豊かな個性を尊重、創造力の涵養、自ら学び続ける自己教育力や自己表現力の意図的育成、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、ICTを用いた指導法、道徳、チーム学校などへの理解
- ③ 教員の職務から求められる資質・能力の向上…学問体系を背景にした専門的知識・技能、教育に対する情熱や使命感、多様な生徒理解の方法や一人一人に応じた指導力の育成

〔長所・特色〕

本学は、昭和42年3月に文学部に「教職課程認定」を受け、現在では文学部人文学科に、中等教育教員の養成を目的とした教職課程が開設されている。国語科と美術科の中学校一種免許状と、国語科・書道科・美術科の高等学校一種免許状を取得することができる。

教職課程を設置する大学としては中規模校であり、しかも免許状の取得は原則として、文学部人文学科に所属する学生のみが可能であるために、少人数制授業による、一人一人に応じた、きめ細かな指導が行われていることが特色であり強みでもある。国語科、書道科、美術科それぞれにおいて専任教員が指導を行い、教科及び教科の指導法に関する科目の教育相談や、採用試験対策などの進路相談やキャリア支援等も随時手厚くなされている。

教職課程の協働的な取り組みとしては、1年次には年2回教職課程ガイダンスと説明会、2年次には年度末に教職課程説明会と第1回介護等体験オリエンテーション、3年次と4年次は、計8回にわたる教育実習オリエンテーションと、3年次に第2回介護等体験オリエンテーションを開催し実施している。開催に当たっては専任教員全員で、準備と指導・支援を行っている。

〔取り組み上の課題〕

課題としては教職課程に関するSD・FD講習会が実施されていないことがあげられる。教職課程が直面する問題に関して教職員間で情報共有、情報交換の場を設ける必要があることは認識しているが、現在のところ開催実績がない。

ただ、専任教員が各教科1名、合計3名と少人数であることから、教職課程教育に関する教職員の共通理解や協働的な取り組みは、むしろ日常的なレベルで実現している。何か問題や課題が生じた際も、迅速に協議して対処することが可能であり、兼任教員への連絡体制も整っているため、運営上の問題は生じていない。学生との連絡は、教務部教務課に教職課程担当の職員が配置されており、連携しながら行っている。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料 1-1-1：大学 HP URL：<https://www.atomi.ac.jp/univ/>

大学紹介「理念・建学の精神」「跡見学園女子大学の特色」「3つのポリシー」「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」

- ・資料 1-1-2：同上「情報公開」「教育課程」「教職課程情報公表」「跡見学園女子大学教職課程」「理念」、「文学部人文学科」「学科の特色」「学生支援」「学生生活」「年間スケジュール」

- ・資料 1-1-3：『教職員便覧』「第五章 アカデミックアドバイザー」P35～P40

(2) 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

▶学内組織

① 教職課程会議

- ・構成：学長・副学長・文学部長・文学部学務委員長・教務部長・教職課程主任・免許状授与の所定資格を得させるための課程認定申請書において文部科学大臣に届け出ている実習校の校長（2名）
- ・開催：1. 定例年2回（4月、10月） 2. 議長が必要と認めたとき
- ・審議事項：1. 教育課程編成に関する方針に係る事項
2. 教育実習に関する重要事項
3. 教職課程主任の選出に関する事項
4. 文学部に設置する教職課程運営会議に関する事項
5. その他教職課程に関する重要事項

② 教職課程運営会議

- ・構成：文学部長・人文学科主任・文学部学務委員長・教職課程主任・文学部長が指名する次に挙げる者（教職に関する科目を担当する専任教員・教科に関する科目を担当する専任教員・教育実習を担当する専任教員）
- ・開催：1. 定例年1回（1月） 2. 議長が必要と認めたとき
- ・審議事項：1. 教育課程編成に関する事項
2. 教育実習の実施・運営・成績評価に関する事項
3. その他教職課程の運営に関する事項

本学の教職課程は、文学部人文学科に開設されているが、「教職課程会議規程」第一条において、「教職課程会議」は、「文学部に開設する教職課程について、その方針、教育課程等を全学的な立場から協議するため」に置かれていることが明記されている。また、第二条において、「教職課程会議は、大学評議会の定める方針に従い」前述した5項目にわたる「審議事項」を審議することとなっている。つまり、年2回（4月、10月）定例で開催される教職課程会議等を通して、教育課程編成に関する事項や教育実習に関する事項など、教職課程に係るすべての重要案件や課題等について、「全学的な立場」から協議することによって、大学当局と教職課程担当者との組織的な連携が常に図られている。

また、この教職課程会議には、本学の教育実習の提携校である、跡見学園女子中学・高等学

校校長と、京華女子中学・高等学校校長も出席し、教育実習を受け入れる側の現場の責任者から、生の声や意見を聴取することで、更に充実した教育実習指導に役立っている。

教職課程運営会議については、「教職課程運営会議内規」第二条に、「教職課程会議の定める方針」に従い、前述した3項目にわたる「審議事項」を審議することとなっている。

教職課程会議で示された方針に従い、教育課程編成や教育実習の実施・運営・成績評価に関する事項などについて、さらに具体的で詳細な審議や検討が行われている。

〔長所・特色〕

本学の教職課程は、文学部人文学科に開設されているため、全学的に教職課程を管轄する教職課程センターや教職課程支援センターのような組織は存在しない。しかし、本学では前述した教職課程会議や教職課程運営会議が、それに該当する組織になっている。大学当局とは、その教職課程会議と教職課程運営会議によって、常に情報が共有されて、組織的な連携が図られている。

教職課程に関する情報は、大学 HP の「情報公開」「教育課程」「教職課程情報公表」欄で公表されている。教務部教務課には、教職課程の担当者がおり、日常的に連携して運営に当たっている。教育実習や介護等体験時において問題が発生した場合は、窓口になっている教務部と連携して、教職課程主任が実習校や実習生及び教科担当者と連絡を取りながら対応し、実習生の指導に当たっている。また、学生による授業評価を春学期末と秋学期末に実施することで、個々の授業改善に資するよう大学全体で組織的に取り組んでいる。

〔取り組み上の課題〕

教育実習や介護等体験の指導や教育実習校への訪問等は、専任教授3名、兼任講師1名の4名の少人数体制で実施しているために、業務が過重負担になっている。オンライン授業などICT教育に対する取り組みは進めているものの、ハード面での対応が十分とは言えない。小・中・高の教育現場で実際に使用されているデジタル教科書、電子端末、電子黒板等の導入が遅れており、学内関係部署と連携して対応を急ぐ必要がある。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料 1-2-1：『教職員便覧』『教職員関係諸規程』
「跡見学園女子大学教職課程会議規程」P218～P219
「跡見学園女子大学 教職課程運営会議内規」P219
- ・資料 1-2-2：大学 HP URL：<https://www.atomi.ac.jp/univ/>
「情報公開」「教育課程」「教職課程情報公表」「跡見学園女子大学教職課程」

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保

〔現状説明〕

入学前の対策としては、大学 HP や学生便覧に、資格課程全体の説明と教職課程に関する情報を掲載し、また、高校訪問やオープンキャンパス等において配布している教職課程パンフレットによって、本学の教職課程の周知に努めている。高校訪問は、春と秋に全学の教職員が手分けして実施しているが、ガイドブックによって本学の学びの特色や入試全般の説明と併せて資格課程全体の説明を行っている。オープンキャンパスは、2022年度は7回開催されている。大学説明、体験授業、学科個別相談、学生による個別相談、キャンパスツアーなどを通して、大学全体の学びの特色や教育環境をわかりやすく体感できるように工夫している。教職課程独自の企画としては、文学部人文学科のコーナーに相談ブースを設けると同時に、ゼミ紹介の一つとして、教職課程の学習活動の紹介を行い、本学の教職課程の特色をより実感的に理解してもらうことで、教職課程を目指す学生の確保に鋭意努めている。

〔長所・特色〕

本学は芸術系大学ではないが、書道科と美術科の教員免許状を取得することができる。また、国語科も含めて、教科の専門性を高めるために工夫された教育課程になっていることも特色である。特に、「教科及び教科の指導法に関する科目」において、実践的な学びの機会が豊富に用意されたカリキュラムになっているが、さらに教科の専門性を高めるため、履修者には教員免許状の教科に関連するゼミの選択を義務づけている。加えて教科と関連するテーマの「卒業論文・卒業研究」を作成させることで、教員にふさわしい資質・能力の養成に努めている。

〔取り組み上の課題〕

国語科に比して、書道科と美術科の各都道府県における教員採用者数が少ないために、書道科と美術科の履修者数もそれに伴い減少傾向にある。書道科では「文の京(ふみのみやこ)書道展」を開催して、首都圏の高校生からの参加を募り認知度の向上に努めているが、美術科においても、コンクールの開催を通して知名度の向上を図るなど、学生数の確保につなげていきたい。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料2-1-1：大学 HP URL：<https://www.atomi.ac.jp/univ/>「入試・入学案内」
- ・資料2-1-2：『学生便覧』「学生生活に関すること」P56～P60、「教育課程」P62～P132
- ・資料2-1-3：「ガイドブック」「教職課程パンフレット」

(2) 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

前期課程は、1年次には春と年度末の2回、教職課程オリエンテーションと教職課程説明を開催している。2年次には年度末に1回、介護等体験の事前指導1回目と同時に、教職課程説明を開催している。教育学部を持たない開放性の本学のために、1、2年次の段階から、教職に対する高い目的意識を持たせることはなかなか難しい。しかし、専門に分かれる3・4年次からの教育やキャリア支援では、教職を担うべき適切な人材の確保や育成のためには遅すぎるため、近年では1年次の早い段階からオリエンテーション等で、教育の目的や意義を強調することで、教職への高い使命感や責任感を育み、教職を担うべき適切な人材の確保と育成に努めている。

3、4年次の後期課程では、8回にわたる教育実習オリエンテーションと、2回目の介護等体験事前オリエンテーションを開催することで、教育実習や教育現場に対する準備や心構え、教員採用試験対策など実際に役立つ指導を行っている。また、毎年東京都や埼玉県の教育委員会から講師を招き、「理想の教師像」や教員採用試験対策などの講演会を開催している。採用試験に合格できなかったものの、卒業後臨時的任用や非常勤講師を希望する学生に対しては、登録制度の話もしていただき、4月当初より教職に就けるようにキャリア支援を実施している。

〔長所・特色〕

4年間の教職課程全体の学修を理解させるために、本学では『教職課程年報』を履修者全員に配布している。『教職課程年報』は、教員の論文や実践研究ばかりではなく、教職課程履修者のキャリア支援にとって必要な情報が掲載されている。教職には、どのような単位修得が必要であるかを確認させるために「教職課程履修カルテ」を活用している。これらを通して、ボランティア活動やインターンシップなど実践的活動の重要性を履修者が自ら理解できるように工夫している。

〔取り組み上の課題〕

教員採用試験対策は、教育実習オリエンテーションでの指導と合わせて、それぞれの教科担当教員が個別に行っている。少人数制できめ細かな指導ができる反面、夏季休業の閉校期間と二次試験対策期間が重なるために、今後は、日程や体制を整えていく必要がある。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料 2-2-1：大学 HP URL：<https://www.atomi.ac.jp/univ/>「資格取得支援」「就職・キャリア」
- ・資料 2-2-2：『教職課程年報』
- ・資料 2-1-3：「教職課程履修カルテ」

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

(1) 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

本学のディプロマポリシーでは、「創立者跡見花蹊の教育精神を継承して、学識、品性、倫理ともに優れた人格を養い、社会に貢献できる、自律し自立した有能なる女性を育成」とある。

そこで、本学の教職課程においても、跡見花蹊の教育精神を継承して、教育者としての使命感や責任感と、教育のプロとしての授業力や指導力とがバランス良く育成され、学識、品性、倫理観の兼ね備えた教員を養成することを目標として教育課程が組まれている。

教職課程シラバスは、ポータルでいつでも閲覧が可能であり、各科目の学修内容や評価方法等を、学生自身が確認できるように明示されている。授業内容は、アクティブ・ラーニングを取り入れた課題解決型の授業であることや、ICT 機器を活用して情報活用能力を育てることが、特に重視されている。そのシラバスに記載された授業内容や評価方法は、毎年文学部学務委員会によってチェックされ、問題があれば教務課より訂正が求められることになっている。

教育実習を行う上で必要な履修科目や単位数は、『学生便覧』に明記されているが、教職課程オリエンテーションでも毎回確認している。教育実習をより実りあるものにするためにも、1年前、半年前、直前にそれぞれ教育実習オリエンテーションが開催され、教育実習に関する注意や指導が、繰り返し行われている。また、教育実習担当者と連絡を密に取るなどの指導もされている。

「教職実践演習」は、文部科学省の指導に従って、基本的には全15回の出席を義務づけている。毎回の授業は、グループに分かれて、ICT 機器を活用した学生自身によるプレゼンテーション、演習、模擬授業等が実施されている。また、小学校・中学校・高校・特別支援校への学校訪問や授業見学を実施し、「教職実践演習記録簿」を毎回記録することを通して、最終的に、教員としての適性があるかどうかを、学生自身で判断できるように指導している。

〔長所・特色〕

各年次の履修登録や単位修得に関する説明は、春学期と秋学期の登録前に、学部学科オリエンテーションが開催され、『学生便覧』や『履修登録のために』等の資料を使って、教務部教務課と各学部学科の学務委員、そして資格課程担当者から、毎回きめ細かな説明がなされている。また、履修登録や単位修得に関する個別の相談は、教職課程担当者はもちろんのこと、アカデミックアドバイザーや教務部教務課の担当者が、常に懇切丁寧に対応し、履修登録に関するミスが起こらないように配慮されている。

4年間の教職課程では、①『『全学共通科目』における履修科目』、②「教科及び教科の指導法に関する科目」、③「教育の基礎的理解に関する科目等」、④「大学が独自に設定する科目」を、そ

それぞれ指定された履修年次内に履修することが必要である。

本学の教職課程の教育課程の特色の一つとして、教科の専門性を高めるように工夫されている点が挙げられる。特に、②「教科及び教科の指導法に関する科目」において、美術科や書道科については実技科目が豊富に配置され、実践的な学びが可能なカリキュラムになっている。さらに、教科の専門性を高めるために、教員免許状の教科に関連するゼミの選択、および「卒業論文・卒業研究」の履修を必須条件としている。こうした教育プログラムによって、教員としてふさわしい教科指導力の養成に努めている。

また、④「大学が独自に設定する科目」では、「道德教育指導論」「生涯学習概論」「図書館概論」「博物館概論」など、教員としての資質・能力をさらに高めるための科目が設けられている。この区分の科目を学ぶことにより、教師として意欲的で積極的に学ぶ基本的な姿勢が培われることが期待されている。

教育実習に関する支援としては、『教職課程年報』や『教育実習の手引き』が全員に配布される。学生はその資料を参考にして、4年間の教職課程に関する学びを計画することができる。また、3年次12月に行われる教育実習オリエンテーションでは、前年度に教育実習を実施した上級生によって、きめ細かなアドバイスや説明が行われている。

〔取り組み上の課題〕

1、2年次の前期課程においては、「教職論」を始めとした教職教養科目を中心に、また、3、4年次の後期課程では、「教科教育法」「教育実習」等の専門科目や実習を中心にカリキュラムが組み立てられており、豊かな教養と実践的な指導力を兼ね備えた教師の育成に努めている。しかし、「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目配置が、やや前期課程に集中し過ぎていることが課題である。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料 3-1-1：大学 HP URL：<https://www.atomi.ac.jp/univ/>
「教育研究上の目的」「3つのポリシー」「大学全体」「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」
- ・資料 3-1-2：「教職課程情報公表」「跡見学園女子大学教職課程」
- ・資料 3-1-3：「教職実践演習記録簿」
- ・資料 3-1-4：『学生便覧』『教育課程』『資格取得課程 ①教職課程』P114～P126
- ・資料 3-1-5：『履修登録のために』
- ・資料 3-1-6：『教職課程年報』
- ・資料 3-1-7：『教育実習の手引き』

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

〔現状説明〕

「教職実践演習」において、文京区の小・中・高・特別支援学校と提携して、学校訪問や授業参観、実習等を実施している。現職の教員による授業や指導方法、ICT教育の実際などを直に見学することで、実践的指導力を養成することをねらいとしている。本学では、中学校と高等学校の一種免許状を取得することができるが、介護等体験や小学校、特別支援学校での学修は、教職の使命感や責任感、生徒を差別することなく平等に接することの大切さを改めて認識させることに極めて有効である。

また、教育実習では、東京都の教育委員会や埼玉県新座市教育委員会、和光市教育委員会と提携している。本学の教育実習提携校である、跡見学園中学校高等学校や京華女子中学・高等学校とは、教育実習の受け入ればかりでなく、教職課程会議にも学校長の参加を得て、本学の教職課程全体に対する現場からの貴重な助言や指導を受けている。

各教育委員会が主催している学校インターンシップは、教育現場の実情を知る上でとても有効であるので、ボランティア活動と共に積極的に取り組むように学生には奨励している。

〔長所・特色〕

学祖跡見花蹊は、日本の女子教育のパイオニアであるとともに、書道を明治初期から女子教育に取り入れ、皇室ともゆかりの深い書家でもあった。この花蹊の教育実践は、今もなお大切に受け継がれている。文学部人文学科では、国語と書道の教員免許を同時に取得することができる。

学内の書道愛好者の育成と地域住民の書の表現力の向上及び書道文化の普及を目指して、毎年7月、文京区シビックセンターにおいて「文の京（ふみのみやこ）跡見学園女子大学書道展」を開催している。この書道展では、本学学生の作品を中心に首都圏の高校生（招待作品）、海外の指導者や学生（招待作品）及び本学書道科講師（賛助出品）の作品のほか文京区の書道愛好者（文京区アカデミア講座「書道」参加者）の作品が展示され、地域との交流に積極的に貢献している。

〔取り組み上の課題〕

書道科や美術科に専任教諭がない場合には、その学校に教育実習を依頼することはできない。受け入れ校を探すためにも、大学に近い地域の学校とさらに連携を深めていくことが課題である。

<基準領域の記載において根拠となる資料等>

- ・資料 3-2-1：大学 HP URL：<https://www.atomi.ac.jp/univ/> 「教職実践演習シラバス」
- ・資料 3-2-2：「跡見学園女子大学 ニュースレター」

Ⅲ 「教職課程 自己点検・評価報告書」作成のプロセス

第1 プロセス：教職課程会議による自己点検・評価についての情報共有。実施方針決定

第2 プロセス：教職課程運営会議による自己点検・評価についての方法、手順等の検討

第3 プロセス：原案作成担当者の決定（教職課程主任）

第4 プロセス：原案作成担当者による試案の作成と送付

第5 プロセス：教職課程運営会議において、試案内容の検討

第6 プロセス：教職課程会議において、試案内容の検討・確認

第7 プロセス：執行部会議に報告

第8 プロセス：内部質保証委員会に報告

第9 プロセス：大学評議会に報告・承認

第10 プロセス：ホームページに掲載・全私教協への報告書提出

現状基礎データ票

令和5年3月1日現在

設置者	学校法人 跡見学園女子大学				
大学・学部名の名称	跡見学園女子大学文学部				
学科の名称	人文学科				
1. 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業者数	人文学科	172名			
② ①のうち、就職者数（企業、公務員等を含む）	人文学科	139名			
③ ①のうち、教員免許取得者数 （複数免許取得者も1と数える）	国語科	20名			
	書道科	1名			
	美術科	1名			
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	国語科	8名			
	書道科	0名			
	美術科	1名			
⑤ ④のうち、正規採用者数	国語科	7名			
	書道科	0名			
	美術科	1名			
⑥ ④のうち、臨時的任用者数	国語科	1名			
	書道科	0名			
	美術科	0名			
2. 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	21名	5名	3名	0名	55名